



ゆきかたの
古くは「行方野」と呼ばれ、赤松やススキが生い茂る原野であった矢吹が原。

やがて開墾事業により、美しい緑に恵まれた田園の町となった矢吹町は、福島県の南に位置し、郡山市と白河市のほぼ中間に位置しています。

現在では空港、高速道路、鉄道などの交通利便性の高い南東北の玄関口として、産業・流通の面でも重要な役割を担いながら、新しい時代に向けて、町は着実な発展を遂げています。

